

明けましておめでとうございます。

# ラベルニュース

No480



令和 8 年 1 月号

東京都ラベル印刷協同組合

編集:広報・情報システム化委員会

〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-16-4

TEL(3866)4561 FAX(5821)6443

## まずはA-Iという道具を使うこと

令和八年元旦

理事長 北島 憲 高



新年あけましておめで

とうございます。旧年中も日々各方面の方々にお世話になり、誠にありがとうございました。

さて昨年の年始の挨拶ではDX化について触れてお話しさせて頂きましたが、この一年を振り返ってみるとさらにデジタル化は進み、「A I」(Artificial Intelligence(人工知能))について色々と学ぶ機会が多くありました。

皆さんの様子を見てみると、すでに積極的に生成AIなども利用してモノづ

くりをされている方。興味はあるけどまだ使いこなせていない方。コンピュータになんか任せられない！と頑なに拒まれていらっしゃる方。ちなみに私は、使つてはいるけれど出てくる答えに基本的には半信半疑で対応して確認作業に時間を取られる派です。それでもその確認の時間がどんどん少なくなっていくのも実感しています。

私世代の人間(昭和後期生まれ)が初めてA Iなるものに携わったのは、ドラ

いう方も少なくないかもしれない。それまで逐一コマンド入力させられていたのが、A Iのおかげで一コマンドでチームメンバー全員をコントロールできるというとても便利な仕組みでした。ただその精度はいま

たが。

さて私たちシール印刷業界においてはA Iの使いどころはどれだけあるのか考えられたことはありますか？顧客からの受注対応、原稿作成、資材の計算・発注、業務指示、印刷加工、納品発送、請求処理・決算処理等々、色々な業務に対していかに人手をかけずに効率化を図り、さらには人知以上の能力を利用して、より良いモノづくりをしていくことが大切かと思

います。そういうえばこういう文章作成もA Iの得意とするところですが、私は今のところ自分の言葉で書いています。ただ効率化はとても大事なことです。人を育てることをくれぐれも忘れてはなりません。

教育するのは正直なところ効率良く出来るわけ

はないですが、

会社が成長をする上で何よりもなくてはならないことです。とにかくまずは「A I」という道具を使つてみて、皆さんの会社・生活を豊かにするべく模索してみましよう。

少々長くなりましたが、最新の話題も昔からの活版の印刷技術も組合活動を通して学ぶことが出来ます。なかなか組合に足の向かなかった方も、この機会に是非とも組合活動にご参加ください。

今年も皆様のご発展の一助となりますよう、理事長として張り切つて努めてまいります。皆様のご理解ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



## 専務理事 本間敏道



明けましておめでとうございます。

昨年は戦後八十年、そして昭和一〇〇年という節目の年でもありましたが、米国ではトランプ政権の復活、日本では高市政権の誕生という日米で大きな転換の年になりました。

そして今年は「午年」の年です。十干の「丙（ひのえ）」は太陽のような明るさや情熱、決断力を象徴し、物事を大きく広げていく性質を持つとされています。このため、丙午の年は情熱や変化が強く表れる年と考えられています。

ラベル業界ではここ数年の原材料の値上げで組合員は大きな痛手を被っています。政府の賃上げの要求に対して、大手企業は二年連

続で満額回答が出ていますが、大半が小規模・零細企業である組合員は、苦境に立たされています。

原材料の値上げに加えて最低賃金のアップなど人件費の高騰で、さらに厳しい状況に追い込まれているのが実情です。

最近ではデジタルプリンターの普及によって業界も大きく様変わりしており、DX化の波が押し寄せております。

組合でも昨年中央会の補助金を頂いて「DXセミナー」を開催し、AIやChat GPTについて、今後積極的に取り組んでいかなくては取り残されると勉強しました。

組合は今年創立六十周年の佳節を迎えることになりました。昭和四十一年に十九社で設立し、この間、九人の理事長により組合運営が行われてきましたが、人間で言えば還暦を迎えたこの年に、さらに組合の原点に立ち返って大きく飛躍したい一年にしたいと思っています。

## 東京都中小企業団体

### 中央会会長 會津 健



明けましておめでとうございます。令和八年の新春を迎えるにあたり、皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

わが国経済は、コロナ禍の大きな落ち込みからの景気回復局面が過去三番目の長さに達し、緩やかな回復基調が続いておりますが、われわれ中小企業・小規模事業者は、最低賃金の大幅な引上げや長引く円安、原油高によるコスト上昇、構造的な人手不足、後継者不足などの課題が山積し、景気回復の実感を得られぬまま新年を迎えました。

このような状況下で本会は、新たに「団体連携型事業承継支援事業」として団体等の事業承継に係る取

り組みを包括的に支援したほか、デジタル技術等を活用した業界活性化を目指す取り組みに対する特別支援「デジタル技術を活用した販売力強化プロジェクト」や技術・サービスの高度化・高付加価値化のための技術開発等を支援する「明日にチャレンジ中小企業基盤強化事業」などを実施しました。

さらに、昨年十月には、九回目となる「組合まつり in TOKYO」を開催しました。二日間開催したリアル展示会では、都内九七組合・団体、全国三十四組合・団体計一三一の組合・団体が出展し、一万三千人を超える来場者が訪れ、盛会裡に終えることができました。

また、今年は、本会が創立して七〇年の節目を迎えます。戦後の復興期を経て中小企業の『大同団結』を掲げた先人たちの想いは、今も色あせることなく我々に受け継がれています。AIの台頭や社会構造の変化など、時代は大きな転換期を迎えていますが、『組織

## 協賛会長 服部 真

### 情熱と行動力をもつて 未来へ突き進む一年に



化により課題解決を図る』という相互扶助の精神こそが、不確実な未来を切り拓く鍵になると確信しております。そして、その想いは、一〇年先、二〇年先の次世代につなげていかなければなりません。

本会は、中小企業組合専門の支援機関として、中小企業の組織化を推進し、その連携を強固にするとともに、事業承継やデジタル技術活用による人手不足対策など、諸課題の解決に向けた支援の実施に努め、東京都や国に対して中小企業施策の充実のための要望を行うなど、皆様の一助となるべくさらなる努力を続けてまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして、明るい希望に満ちた年となることを心からお祈り申し上げます、年頭のご挨拶いたします。



明けましておめでとうござ

います。旧年中は協賛会各社に対し格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。本年も引き続きご愛顧のほど、よろしくお願いいたします。

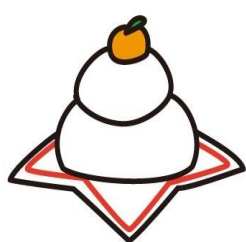
さて、昨年を振り返ると、非常に厳しい事業環境が続いたという印象です。数年来の物価高による消費マインドの冷え込み、アイキャッチラベルなどシール・ラベルの需要低迷に加え、商品のパッケージ形状の多様化や直接印刷によるラベルレス化の進行もあり、シール・ラベル業界全体が活気を失いつつあるようにも感じられます。

しかし、商品の特徴やブランドイメージ、可変情報などを消費者に伝えるというシール・ラベル本来の役割に立ち返り、粘着ラベルが持つ利便性、機能性、意匠性や素材の質感といった強みを最大限に生かしていくことで新たな需要を掘り起こしていかなければなりません。

「丙午」はどちらの文字も「火」を表し、情熱と行動力で前に突き進む、という意味があるそうです。私たちも、今は厳しい事業環境の中にはありますが、再び業界全体が成長軌道を描いていけるよう、組合と協賛会とが一致団結して新たな用途開発、新たな市場開拓へとエネルギーに突き進む一年にしていこうではありませんか。

最後に各社様の今後のご発展と皆様のご健康を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

作業者の技術の平準化といった観点から、従来のラベル印刷機に加えてデジタル印刷機の導入が進むものと思われるかもしれません。また、昨今の環境意識の高まりを受けて、さまざまな観点から環境に配慮したラベル素材の採用は着実に増えてきています。剥離紙のリサイクルについても、ラベルを廃棄物ではなく“資源”としていく取り組みの一





## 寄稿 No8

### あなたにとって本当の財産とは？ 意志あるところ、必ず道あり

(株)大東マーク工業 清水 佳則



あなたの財産は何ですか？

私たちが日常生活で「財産」と聞くと、真っ先に思い浮かぶのはお金や物質的な物さらには社会的な地位かもしれません。しか

し一度立ち止まって考えてみましよう。

あなたにとって本当の財産とは何でしょうか？

私が何よりも大切にしているのは、仲間との絆です。

心から信頼できる友人や家族、共に笑いあったり、助け合ったりできる関係は、金銭では買えないものです。

困難な時期に手を差し伸べてくれる仲間とのつながりは、どんな財産よりも価値があるのではないのでしょうか。

約四〇年前、私は夢と希望を胸に全国優勝経験のある名門ラグビー部に入部しました。

当時、人気テレビ番組「スクールウォーズ」の影響もあり、私たちのチームには一二〇名を超える新入部員が集まってきました。

しかし、その厳しい日々が待ち受けているとは誰も想像できませんでした。

練習は、今では考えられないほど過酷でした。

水も一滴も飲めないという環境で監督をはじめ上下関係も容赦なく厳しく、特に先輩からの圧力は相当なもの

でした。

朝練で目を覚まし、授業後は再び練習、自主練が続き、帰宅は毎晩九時過ぎ。朝は六時には登校という生活スタイル。

勉強する時間がないことは明白で、毎年休みはわずかに一〇日のみ。日曜日や夏休み、正月すらも練習で潰れてしまうのです。

さらに厳しさを増したのは、練習中に着用する一〇kgのジャケット。これを着たまま、合宿では毎朝二四kmランニングを強いられました。

果たしてそれができるか、途中で何人かはそのまま脱走してしまう始末。こうして、最初は一二〇名もいた同期たちも、半年後にはわずか三〇名にまで減少してしまっただけです。

この厳しい練習を通じて、私はたくさん学ぶことができました。

忍耐、チームワーク、そして自分自身を限界まで追い込むことの重要性。どんなに辛いことでも、それを乗り越えることで得られる達成感は計り知れません。

ラグビー部生活は、私

に大切な人生の教訓を与えてくれました。振り返ると、この厳しい経験があったからこそ、今の私があるのだと思います。

ラグビー部の仲間たちとの絆は、永遠に私の心に残り続けるでしょう。

日々の生活の中で、私たちは多くの人々と出会い、交流を深めていきます。

しかし、中でも特別な存在になるのが「仲間たち」です。

最初は偶然の出会いでしたが、彼らとの共有した時間は、辛く厳しかった思い出しかありませんが現在では、かけがえのない時間となりました。

どんな時でも、私は彼らに支えられています。私にとって、この仲間たちはただの友人ではありません。

困難な時期には励まし合い、喜びを分かち合い、人生のさまざまな場面で寄り添ってくれた存在です。

彼らとのつながりがあることで、私はどんな困難も乗り越えられると感ずることが出来ます。

5面に続く

彼らは私の「羽を休める場所」であり、心の安らぎを与えてくれます。

そして、今では彼らと会うことが毎回の楽しみ。集まりを持ったびに、新しい思い出が生まれ、絆がさらに深まっています。一緒に酒を交わしたり、趣味を楽しんだり、旅行に出かけたり…

それぞれの人生がどう進んでいても、私たちは集まることでお互いに新たなエネルギーを与え合っています。

このように、仲間たちとの関係は私にとって大切な財産です。

彼らは単なる友人ではなく、私の人生において不可欠な存在。

これから、彼らとの時間を大切にしながら、共に成長していけたらと思っています。

人生の旅路において、仲間たちと共にあることの喜びを忘れずにいたいと思います。

そして今回の振り返りを通じて、同じようにスポーツや厳しい生活を送る

若い世代にも、この精神が受け継がれていくことを願っています。

最後にそんな厳しい日々を経て迎えた卒業式の瞬間は、私にとって特別な意味を持つものでした。

その日、監督からいただいた一枚の色紙には、私の心に深く刻まれる言葉が書かれていました。

「意志あるところ必ず道あり」

このシンプルながら力強い言葉は、私のこれまでの経験振り返るきっかけとなりました。

困難な時期にも、決してあきらめず、自分の目標に向かって努力し続けることの重みを再確認させてくれました。今でもあの言葉は常に私の心の中で鳴り響いています。

未来には不安が待ち受けているかもしれませんが、意志を持つ限り、必ず自分の道を切り拓くことができるという希望を忘れたくありません。

これからの道のりも決して平坦ではないでしょう。しかし、「意志あるところ

必ず道あり」という言葉を胸に、私は自分が目指すものに向かって全力で邁進していきたいと思っています。今までの思い出と共に、未来に向けた挑戦を楽しみにしています。

## 連合会が原紙の値上げで意見集約を

全日本シール印刷協同組合連合会(田中祐会長)では、リントックなど各社から粘着紙、粘着フィルムの値上げ要請が来ていることに対し、各協組から実施期の日の延長や値上げ幅の圧縮を要請する依頼が来ているため、各協組の意見や日印産連の動きを見ながら対応していくとしています。

田中会長は『現在の経済環境を考慮すると、経産省が「公正な取引環境の整備」を掲げて発注側企業に価格交渉に応じるよう促すなど原材料の値上げを上手く価格に転嫁していく流れが強まっているようです』として、今後各協組が忘年会や新年会場で組合員の意見を吸収して連合会に報

告してほしいとしています。また来月に臨時理事会(オンライン)を開催して意見集約をして、連合会として内外にアナウンスをしていく方針。

## 神奈川シール組合組合事務所を移転

神奈川県シール印刷協同組合(佐々木兼一理事長)は、「スマート事務局化で組合運営をもっと軽やかに」をモットーに、十二月一日より組合事務所を左記に移転しました。

新しい住所は次の通り。

新住所…〒二三〇・〇

〇一一

神奈川県横浜市鶴見区

上末吉五・二一・一四

☎…〇四五・九〇〇・

四九八六

FAX…〇四五・九〇

〇・四九八六

※電話番号とFAX番号は同じです。

※メールアドレスの変更はありません。

更

([Kanagawaken.seal@themis.ocn.ne.jp](mailto:Kanagawaken.seal@themis.ocn.ne.jp))

## 恒例の合同支部会(忘年会)を開催

景気回復に大きな期待寄せる声が

組合恒例の合同支部会(忘年会)は、十二月五日(金)午後六時より、いつもの台東区上野の「梅の花・上野広小路店」において開催されました。

本間専務理事の司会で初めに北島理事長が「今年は大変な一年ではありましたが、組合の事業にご協力を戴きありがとうございました。来年もまた様々な事業を計画しておりますので今年以上によりしくお願い



いたします」と挨拶し、全員で乾杯をしました。

今回は初参加の光英堂シール印刷の坂内社長や弥生印刷紙工に十月からオペレーターとして入社した栗林さんなどが参加しにぎやかな忘年会となりました。

この後恒例の福引大会も行われ、景品が当たったばかりに歓声が上がりました。午後八時過ぎに保坂副理事長の三本締めめでたくお開きとなりました。

また、九日(火)には同じ場所、役員(長老)の忘年会が開催され、八十八歳の丸吾の植田さんを筆頭に弥生印刷の野尻さん、組合参加の清宮さん、オリエンタルの高尾さん、昇栄シールの弓名持さん、組合の本間専務理事など後期高齢者六名が参加しました。六人の平均年齢は何と八十二歳でした。最近の組合運営にも厳しいご意見を頂き、有難うございました。

## ラベルコンテスト

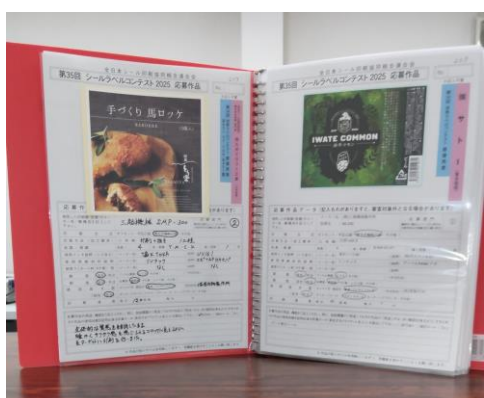
### 作品集を販売中

全日本シール印刷協同組合連合会では、第三十五回シールラベルコンテストの作品集を販売中です。

第三十五回シールラベルコンテスト作品集は限定四十冊で世界ラベルコンテスト二〇二五の結果発表も合わせて網羅しています。

頒布価格は、組合員・会友・協賛会員様二万九千八百円(消費税、送料込み)です。一般向け価格は、四万一千円(消費税、送料込み)です。

購入申込書はホームページの「購入申込書ダウンロード」はこちらから(Ward



ータ)よりダウンロードして下さい。

<http://www.seal.gr.jp/>

ラベル新聞社

日本のラベル市場

「二〇二五」を発売中

同書はラベルをはじめ印刷や包装分野に対して、独自に収集したデータを分析。出荷推移や今後の需要動向をグラフで示しています。国内ラベル印刷会社の事業動向、印刷機的方式別出荷台数、さらには海外市場の推移などについて更新情報を伝えています。

定価は三万円(税別)。申し込みはラベル新聞社まで。 ☎ 3866-6577

<https://labelshimbun.com/>

